

三重県に

どっちの候補が

原発をつくらせなかった

2015年
県知事選挙

先輩たちの伝統を 引き継ぐ候補？

4月12日は4年に1回の三重県知事選挙です。この三重県を、将来の世代に安心して引き渡すために、大切な時期です。左の表は、この間「原発なくせ三重県民会議」が、2人を起こさない保障はなし。

原発つくらせなかった 「先人に感謝」と述べた知事は？

ところが安倍政権は、鹿児島県の九州電力川内原発で、あるいは関西電力高浜原発で、再稼働の動きが活発化させています。さて、私たちの先輩たちは、南伊勢町の芦原発事故のあと、鈴木知事も、「原発つくらせなかつた」と述べた知事は？

原発は重要な基幹エネルギーと考える
安倍内閣のエネルギー政策に賛成か？

鈴木英敬氏（現職）	賛成
藤井新一氏（新人）	反対

芦浜の土地処分について
（消費者庁勧告添え書きして質問）

鈴木英敬氏（現職）	無回答
藤井新一氏（新人）	処分すべき

* 回答内容の全体は、ウラ面に掲載してあります。

原発なくせ三重県民会議

連絡先：津市柳山津興 1535-23

三重民医連気付け FAX 059-253-3126

「原発について」知事立候補予定者の意識調査結果 2015年2月26日締め切りで依頼。表中の — は、選択無しを示す

回答者	福島第一事故の現状認識について		原発の再稼動について		原発は重要な基幹エネルギーとの安倍内閣のエネルギー政策への賛否		今後の県内での原発建設について		芦浜の土地処分について(消費者庁勧告添え書きして質問)		原発PRのための中電による諸階層の浜岡招待について消費者庁勧告添え書き		再生可能エネルギーの開発と省エネ社会への思いを自由に書いてください 呼び水的意見を参考に添え書きして質問した
	収束している	収束していない	賛成	反対	賛成	反対	認める	認めない	処分すべき	現状で構わない	容認	反対	
鈴木 英敬	—	—	—	—	○				○	—	—	○	<p>(質問者注＝返答は「鈴木英敬後援会(事)」で発送されており、候補者本人の意見かどうかは不明です)</p> <p>1、木曽崎干拓地メガソーラーや三重ウッドなど太陽や風況、木質バイオマスなど 地域資源を活用した安全で安心なエネルギーの確保 2、市町や地域が取り組む新エネルギー導入につながる計画策定等を支援 3、家庭や事業所の木質バイオマス熱利用設備等への支援や公共施設(防災拠点や避難所に太陽光発電と蓄電池等を整備 4、企業と連携した燃料電池や太陽エネルギーの研究開発</p> <p>なお、選択肢に限りがあることや質問内容に疑義があるものが含まれることなどから一部の質問には回答を差し控えました。 当該アンケートがどのように利用されるか明示されていないことは遺憾です。</p> <p>(質問者注＝「集計して公開します」と設問用紙に記載してあります)</p>
藤井 新一		○		○		○		○	○			○	<p>エネルギー政策 原発に頼らないのはもちろん、未来を見据えて、再生可能エネルギーを「ベースロード電源」と位置づけ「再生可能エネルギーみえ条例」(仮)制定し、21世紀にふさわしいエネルギー構造への転換を目指します。 そのためには、住民・地元事業者を主人公に、地産地消、小規模・分散、地域循環型での事業展開が欠かせません。 ① 基本計画を策定し、再生可能エネルギーを「ベースロード電源」とした三重県の将来ビジョンを確立します。 ② 地域の自然・地理・産業を調査し、有効に活用できるエネルギーを選定します。 ③ 住民、地元事業者の取り組みを支援します。 a) 事業を推進する組織づくりの支援 b) 税財政、許認可などの支援 ex. 住民が発電した電気を県が購入する c) 入札・契約を通じた支援 ex. 総合評価型入札に新たな評価を加える d) 農林水産業の振興と結びつけた支援 ④ 県として省エネ、省電力化、直営の事業をすすめる。 ⑤ 再生可能エネルギー事業を地域の環境教育に生かす。 ⑥ 地球温暖化防止。CO2削減の取り組みと結合する</p>